

夢窓幼稚園通信第60号

2024年1月31日

2-3日前から、最近十数年間の園の通信を読み返しています。明日に向かって静かに立ち止まることも大切だと思いたからです。

そんな中で、ひとつの体験のことを思い出しました。

コロナ禍以前は2-3年に一度、国内で海外からのインターンをお受けし、3-4ヶ月間子どもたちと遊んだり仕事をしたり...過ごしてもらってきました。エントリーしてくれた彼女たちにとっては異国での大きな経験の場になったようですが、私たちにとっても同様で、異なった習慣や文化を教えてくださいたりコミュニケーションがしづらい誰かとの関係のつくり方にわくわくしたり...と、毎回たくさんの貴重な機会を得たと思います。

ある時「日本の文化をいろいろ知りたい。」とのことで、私たち自身もあまりしたことのない坐禅をさせていただくことになりました。

希望の職員と共に、20分2回の小さな坐禅の体験、そして住職からのありがたいお話の時間。

お話の中で「お布施」ということを教えていただきました。

「雑宝蔵経」というお経にある「無財の七施」というお話でした。

その時のメモによると...

お金でお礼をしたり施しをしたりできなくても、真心をつくして人に向き合うことがすてにしてお布施だということです。

また七施とは 次の7つなのだ

眼施(やさしい眼)	和顔施(にこやかな顔)
言辭施(親切な言葉)	身施(真心のこもった奉仕)
心施(思いやりの心)	茶座施(席のゆずり合い)
房舎施(気持ちのいいもてなし)	

忘れても反対のことをしてしまい、仕切り直しの毎日です。それでも

ひとつひとつの大切な出会いをまごころで向かい合う
大切にしたいですね。

あれっ！子どもたちは無財の七施をそのまま生きているのでしょうか...
実においしそうなご馳走を小皿にたくさん並べて遊んでいる子どもたちがいました。

「いかがですか?」と声をかけてくれます。

「あっ、おいしゅう。」

「焼きおにぎりはどうですか」

「おかれはいりません。ただですよ。」

まごころで生きていることがすてにして世界への施で、誰かに何か物を届けなくても最高のプレゼントなのかもしれないね。

話すことも行動も...表情も...手紙も、あいさつもすべての表現が少しでも無財の七施につながることを願って、醤油をつけた焼きおにぎりを食べながら、明日に向かおうと思いました。園長 弁光泰雄

